甲賀の文化財

朝宮の湖朝組

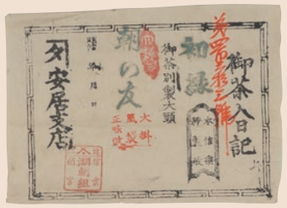
甲賀のお茶は、信楽焼や甲賀のくすりと並ぶ、甲賀市の伝統的かつ主要な地場産業製品です。大きく土山の「土山茶」と、信楽の朝宮地域の「朝宮茶」があり、甲賀の特産品として知られています。今回は、このうち明治期の朝宮茶に関するエピソードを紹介します。

朝宮地域と茶の関係は、かなり古くから続くものであることはよく知られています。江戸時代には、御茶壺をはじめとする京都宇治のお茶文化との関係もあってか、茶園やお茶の贈答記録も残るなど朝宮での生産活動は維持され続けました。

近代に入ると日本茶の海外輸出が盛んになりますが、朝宮でもそれに対応したと思われる同業者組合「湖朝組」が明治十年代に組織されています。組合員は全て朝宮の茶生産者で、「自製茶」を湖朝組の名義で「輸出」することや、組外の茶商人に売らないこと、さらには粗悪品を生産しないことなどが規約として取り決められています。実は、明治前期は粗悪な輸出用日本茶が問題となっていた時期であり、朝宮地域の生産者が主体的に問題解決に取り組んでいたことが分かります。

同時期かと思われる記録には35種に上る銘柄が、壺入りのお茶として生産者とともに記載されており、家ごとのブランドが壺単位で販売されていたことも判明します。銘柄は「朝乃露」や「緑山」、「朝乃友」など朝宮にちなむものが多かったようです。そして、茶壺を収める箱に貼ったであろう「御茶入日記」という紙が残されていることから、いずれも高級茶の類であったと推定されます。

今回紹介した「湖朝組」とその活動についてはほとんど知られていません。しかし、市の特産品の中でも、比較的早くに独自の生産体制を築こうとした例として貴重です。何か情報をお持ちの方は、下記までご連絡ください。



湖朝組印のある「御茶入日記」（個人蔵）

問 歴史文化財課　普及活用係　☎ 69-2250　Fax 69-2293

12月3日～9日は、「障害者週間」です。

障がいのある人とない人がお互い尊重し合う

共生社会の実現をめざして

手話奉仕員養成講座

甲賀市では、多様なコミュニケーション手段の利用を促進し、障がいのある方もない方も、お互いに認め合い、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現をめざしています。その一環として、手話奉仕員養成講座を毎年開催し、多くの方にご参加いただいています。

＼来年度も開催予定!／

参加者の声

- 聴こえない友人ともっと手話でコミュニケーションがとれるよう勉強したい
- 特別支援教師か言語聴覚士になりたいと思っているので、大学に入るまでに手話を覚えたい
- 毎週の講座が楽しみ

皆さんも、手話を使ってコミュニケーションを取ってみませんか?

市公式YouTubeからも手話の勉強ができます!

問 障がい福祉課　☎ 69-2161　Fax 63-4085

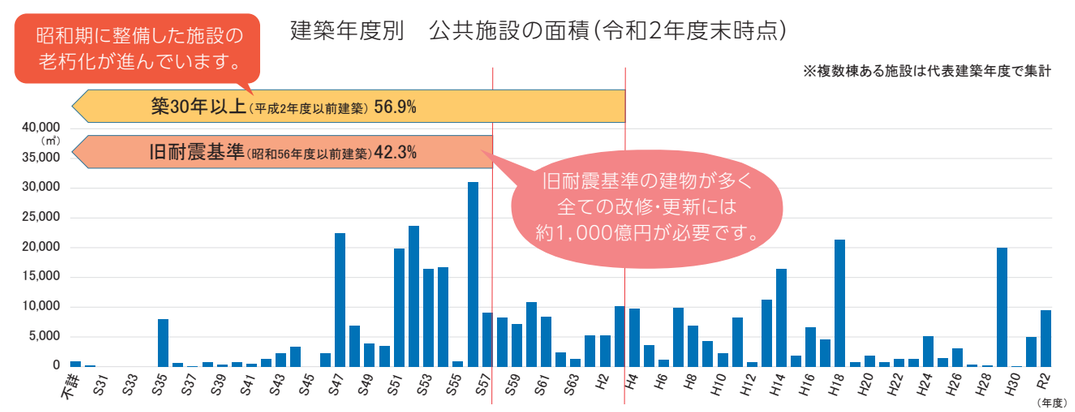
みんなで考える公共施設

このコラムでは、市の公共施設のあり方とこれからについて、みなさんにお伝えしていきます。

vol.2

甲賀市の公共施設の現状

市には350あまりの公共施設がありますが、昭和期に整備された施設が多く、築30年以上の施設が約57%を占めます。現在、これらの公共施設の維持、修繕に多額の費用を費やしています。



出典:甲賀市公共施設等総合管理計画施設の最適化方針（平成29年7月策定、令和5年3月修正）

問 マネジメント推進室　☎ 69-2119